

令和２年度 碧南市病院事業報告書

1 概況

(1) 総括事項

ア 業務状況

碧南市民病院は開院３２周年を迎え、この間、地域の二次救急医療機関として、また市民の生命と健康を守る地域の中核的な病院として役割を果たすべく尽力してまいりました。

昨年度発生した新型コロナウイルス感染症が全世界で猛威を振るう中、当院においても４月に院内感染により１２人の感染者が発生し、感染拡大の防止策として４月７日から５月６日までの間、外来、入院、救急外来において診療制限を行いました。診療再開後も患者の受診控え等の影響から、入院、外来患者数は大幅に減少し、入院患者数は対前年度比２４％減の６３，１９６人、外来患者数は対前年度比２２％減の１２５，８８４人となりました。その中で、新型コロナウイルス感染症への対応として緊急に必要となる感染拡大防止や体制整備等については、国の新型コロナウイルス感染症緊急包括支援交付金等を活用し整備を進めました。また感染対策としては、院内感染を教訓にして、感染を「持ち込まない」、「拡げない」、「持ち出さない」を目標に、正面入り口での来院者の問診や体温チェック、入院患者への面会禁止等を行い、職員一丸となって感染防止に取り組んでおり、地域の皆様に安心して受診していただけるよう努めております。

病棟改修計画につきましては、令和元年９月に厚生労働省から再検証対象医療機関の指定を受け一時中断していましたが、令和２年３月に西三河南部西地域医療連携推進ネットワーク総会にて急性期五病院協定を締結し、地域の二次救急医療機関としての役割を果たし継続して地域の急性期を担う病院として、医療提供体制の維持を目指すとの方向性を得たため、再度、計画策定への取り組みを始めております。

医師の確保対策としましては、近隣医大の医局訪問を積極的に行っており、年度末現在の医師数は前年度末より２人増の４４人となりました。また研修医については、修学資金条例に基づき修学生を募集し１名の医学生を確保したほか、５名の研修医の受け入れを行いました。

医業収益につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響による患者数の減少から、対前年度比１１億２千８百万円余の減少となりましたが、軽症患者の減少等

により入院患者一人当たりの診療単価は対前年度比3, 124円増加の49, 955円、外来患者一人当たりの診療単価は対前年度比668円増加の13, 262円となりました。また医業外収益は新型コロナウイルス感染症関連の補助金や寄附金の受け入れにより、10億4千2百万円余の増加となりました。医業費用は材料費の減少等により、対前年度比3億4千6百万円余が減少し、結果として、令和2年度の当期純損失は7億7千2百万円余りとなり、令和元年度の10億1千8百万円余と比べて、2億4千6百万円余減少しましたが、依然として厳しい状況が続いています。

イ 患者数

入院患者（退院含む）は、63, 196人（1日平均173.1人）で昨年の83, 616人より20, 420人の減少、また、外来患者数（時間外含む）は、125, 884人（1日平均518人）で昨年の161, 439人より35, 555人の減少となりました。

ウ 収益的収支

病院事業収益は6, 962, 252, 493円、病院事業費用は7, 734, 664, 894円で、当期純損失は772, 412, 401円となりました。

エ 資本的収支

資本的収入は598, 165, 148円、資本的支出は973, 908, 620円で、収支不足額は375, 743, 472円でした。

収入については、一般会計からの繰入として出資金392, 439, 000円、企業債115, 800, 000円、新型コロナウイルス感染症関連の補助金88, 318, 148円、看護師修学資金返還金として1, 608, 000円を受け入れました。

支出については、面会室整備等の建設費として59, 730, 824円、免疫・生化学検査装置等の機器備品を購入するための資産購入費として164, 132, 105円、ほかに企業債償還金（元金）として719, 385, 691円、投資として医師、看護師等修学資金貸付金30, 660, 000円を執行しました。

以上が令和2年度の決算概要であります。今後とも医療体制の充実、医療の質の向上を図るとともに、サービスの向上と経営の健全化に努めるよう一層努力してまいります。